

砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 地域医療における鳥取医療センターの役割
2. 看護の日の行事
3. 研修報告
4. 平成26年度 永年勤続表彰について
5. 鳥取医療センターの電気設備について



地域医療における鳥取医療センターの役割

平成26年度の診療報酬改訂から読み取れるものはまさに在宅元年と云われる国の医療政策の方向性を新たに示したものでした。平成26年6月18日「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」第6次医療法が成立し10月より施行されます。この法律では病床機能報告制度、医療計画の中での地域医療構想(ビジョン)の策定が義務づけられます。これから団塊世代が75歳以上となる2025年の超高齢社会を迎えるための社会保障制度改革のため、今から医療、介護、福祉、予防にしっかりと取り組まねばなりません。病床機能報告制度では一般病床・療養病床を有する病院・診療所において病棟単位で高度急性期、急性期、回復期、慢性期から1つを選択します。また地域医療ビジョンでは二次医療圏ごとの医療需要の将来推計法を用い将来の病床の必要量に立脚して病床の現状を是正します。鳥取医療センターはこれまで入院医療においてはセーフティーネット系医療を中心としてきました。これらは地域医療との繋がりが比較的希薄でした。地域との連携をより緊密にする為に回復期リハビリテーション医療を行うようになり、急性期病院との連携が徐々に構築されていますが、一般地域住民の方々からの医療に対する十分な信頼を得るに至っていません。この度の医療法改正の中では特に地域包括ケアシステム構築の重要性が謳われています。当院が地域包括ケアシステムにおいてどのような役割を果たすかにより、当院の今後の存立に関わると云っても過言ではありません。特に高齢者を対象とした地域医療では認知症に対する抜本的な取り組みも当院としての重要な果たすべき役割となってきます。認知症・老人医療は高齢者を対象とするため多くの診療科が協力し医療、看護、介護、福祉とまさに包括的な取り組みが必要です。病院一丸となり地域包括ケアシステムの構築に向けて努力したいと思います。



鳥取医療センター 院長
下田 光太郎

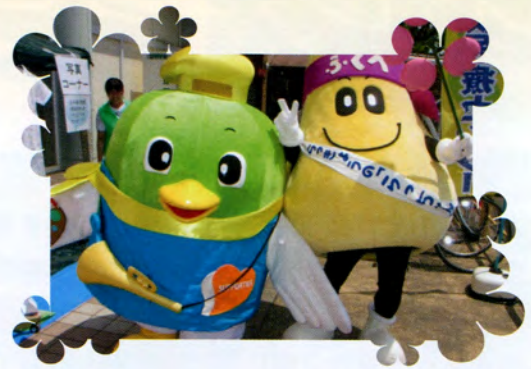
看護の日の行事

～看護フェスタinサンマート湖山店 by 鳥取医療センター～

看護師長 神 農 祐 子

5月10日土曜日、「つなごう絆 看護の力で」をテーマに、看護フェスタをサンマート湖山店さんの店舗前をお借りして開催しました。快晴で青空のもと、たくさんのお客さんに立ち寄っていただきました。

身長・体重・体脂肪、血圧測定、ストレス度チェック、骨密度・脳年齢・血管年齢・呼吸年齢の測定、当院医師による健康相談のコーナーを設けました。骨密度測定、ストレス度チェックに人気があり、「すぐ測れるなら、買い物に来たついでに測ってみたい」と言われる方がたくさん来て下さいました。健康相談では、日頃の心配事や測定結果について、相談されていました。来場者からは、「気軽に測定でき、先生にも相談で



きるので、また来年もやってほしい」などの声が聞かれました。昨年に引き続き、「お子さんの看護師姿を写真に撮ってみませんか？」と題して、子どもさん対象に看護師ユニフォームを着て、写真を撮りプレゼントするコーナーを設けました。子どもさんの白衣姿を携帯で写真撮影したり、「この子の母親も看護師なんですよ」と笑顔でお話し下さりとても好評でした。白衣姿になることで、「看護師さんになりたいな」という子どもさんもあり、看護師に興味を持ってもらえたことをとても嬉しく思いました。“トリピー”や福部町のキャラクターの“らっちゃん”“なっちゃん”も来てくれて、子どもたちも大喜びでした。バルーンアートも





好評で、プードルや花の形をしたものが人気でした。

院内行事では、「お父さん・お母さんは看護師さん」と題して、お子さんたちに似顔絵を書いてもらい、院内に掲示しました。一生懸命に書いた似顔絵や「私の大好きなお父さん、お母さん」「お仕事がんばってね」というメッセージを見て、私たちまで元気をもらえま

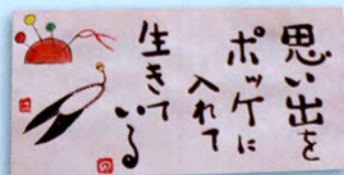
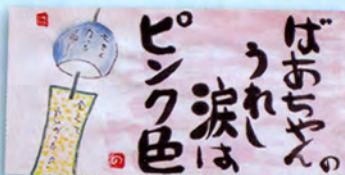
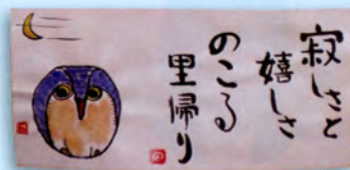
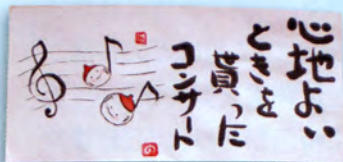
した。入院中の子どもさんから「わたしの大好きな看護師さん」という似顔絵もあり、とても微笑ましいものになりました。

今回、看護フェスタを開催するにあたり、院内外の多くの方にご協力いただき感謝いたします。看護の力で、皆様と少しでも絆をつなぐことができたら幸いです。



○ 当院の患者様の作品を紹介します ○

一病棟 <山岡紀子様>



● チーム医療推進のための研修会 I (NST)を受講して ●

リハビリテーション科理学療法士 香 田 綾 郁

今回、NHO岡山医療センターにて6月16日から一週間の日程で開催されました「中国四国グループ内チーム医療推進のための研修会 I (NST：栄養サポートチーム)」に参加させて頂きました。チーム医療推進のための研修会という名前の通り、参加者は看護師、栄養士、薬剤師、歯科衛生士、言語聴覚士と多くの職種の方がおられました。研修ではグループでの症例検討会もあり、それぞれの立場から様々な意見を聞かせて頂き、自分の知らない知識や各職種の役割を学ぶことができました。

私は、当院のNST活動に参加して3年が経過しましたが、知識不足もあり、なかなかその役割を果たせていません。「チーム医療は、チームスタッフが同じ方向を向き、それぞれの立場から意見を言うことである」と講師の先生がおっしゃっていました。患者様により良い医療を提供するために、NSTにおいて理学療法士の立場から、その一端を担えるよう頑張っていきたいと思います。



● 新採用者研修を受講して ●

精神科心理療法士 太 田 真 貴

今回の研修では、国立病院機構についての講義に加え、多職種の方々と関わることができ、機構の一員として心理職として感化される機会となりました。また、接遇研修では患者様に寄り添おうと努める一方で支援者としての業務を全うしなければならないことから、患者-支援者間の思いにズレが生じる場合があることに気付き、支援者という立場で患者様に共感することの難しさを痛感しました。そのズレを少しでも縮めるために、患者様と関わる中で支援者が自身の感情に気付き、それと向き合うことの大切さを学ぶことができました。



療育指導室児童指導員 長 迫 東 子

5月22日から三日間、岡山医療センターにて行われた新採用者職員研修会に参加しました。初めての研修会だったので、期待と緊張とが入り混じった状態で臨みました。



特に印象的だったのは、職種別の研修でした。中四国グループの療育指導室長と主任保育士四名が講師として対応して下さいました。講師の方々の長年の経験に基づいた話は大変勉強になりました。この研修会で学んだことを活かして、これからも、患者様のよりよい人生づくりのご支援ができるよう、邁進していきたいと思います。

リハビリテーション科作業療法士 谷 口 万 里 恵

昨年7月に採用になり、約1年たちますが、国立病院機構職員としての義務や接遇の講義を受け改めて自分の業務や日々の関わり方について見直す機会となったと思います。特に接遇のロールプレイでは患者様の不満に含まれているニーズを見出しどのようにOTとして対応していくべきか意見交換できとても有意義な時間でした。今回の研修をふまえ患者様のために自分が何をすべきか考えていこうと思います。



リハビリテーション科理学療法士 磨 井 祥 吾

到着早々、同期の多さに圧倒されると同時に、これほどの仲間がいることに興奮を覚えました。施設ごとに特色があり、自己研鑽や臨床研究に積極的な施設、チームワークの取れた施設など、見習うべき点を多く発見した貴重な機会となりました。私たち新人にとって社会は大海原であるため、助け合い、切磋琢磨できる仲間がいると知ったことは大変心強いです。この研修の経験を活かし患者様にはもちろんのこと、同期や施設、そしてグループ全体に対して影響力のあるPTを目指します。



○平成26年度 永年勤続表彰について○

庶務係長 山本 淳 詞

去る、平成26年5月7日に当院大会議室において、平成26年度の永年勤続表彰式が挙行されました。式では、長年勤務してこれ、国立病院機構を支えてきたこと、また医療の発展と向上に寄与してきたことの功績をたたえられ、下田院長から表彰状と記念品が授与されました。

なお、今回表彰されたのは次の方々です。

勤続30年	看護部長	山根 美子	栄養管理室長	濱端 直樹
	契約係長	鶴沢 克彦	副看護師長	田中 洋子
	副看護師長	藤内 益美	看護師	堀 真由美
	看護師	井崎 裕子	看護師	引地 倫代
	看護師	山田 美幸	看護助手	湊 しのぶ
勤続20年	副薬剤科長	板野 亨	臨床検査技師	青木 恵子
	看護師	松田 智子	看護助手	熊谷 美智子



○永年勤続表彰を受賞して○

看護部長 山根 美子

この度は、永年勤続表彰を頂きありがとうございました。

長かったような、あっという間だったような30年間でした。多くの患者さんや一緒に働く仲間と出会い、変化と気づきのある貴重な時間でした。元気で勤務できることに感謝しつつ、もう少し頑張っていきたいと思います。

多くの方々に支えて頂いたことに心からお礼を申し上げます。



○ 職場紹介 ～1病棟～ ○

看護師長 神 農 祐 子

1病棟は、神経筋難病病棟で、看護職員は、看護師26名・療養介助専門員8名・業務技術員2名の計36名です。患者さんは、筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの難病の方です。

私たちは、難病と闘いながら、残された身体機能を最大限に活かして生きていく患者さんのその人らしさを尊重し、生きがいを支えられるよう、患者さんに寄り添ったあたたかくやさしい看護をおこなっています。

特に力を入れて取り組んでいることは、人工呼吸器を装着している患者さんでも、「花が見に行きたい」「海が見に行きたい」「家に帰ってみたい」という外出・外泊の要望に添い、理学療法士・地域連携室と連携し実現に向けて頑張っています。今年度は、5名の方が自宅・ショッピング・花見などに外出し、2泊3日の外泊ができた患者さん



もいらっしゃいます。何より、患者さんの病院では見られない笑顔を見ることができ、私たちのほうが元気をもらうことができ、嬉しく感じています。

療養生活に少しでも楽しみや季節感などを味わってもらえるよう、季節ごとの行事にも力を入れています。演歌や懐メロなどの曲目でミニコンサート(春・秋)、七夕の短冊飾り、夏の花火大会、クリスマス会などを行っており、患者さんやご家族の方から、好評の声をいただいています。



これからも、患者さんに寄り添った看護が提供できるように頑張っていきたいと思います。



○ 職場紹介 ～2病棟～ ○

看護師長 加 藤 藍 子

2病棟は陰圧病床18床を含む50床の結核・一般病棟です。一般は内科・神経内科・外科等の混合で、主に肺炎・心不全・呼吸不全の患者さんが多く入院しています。

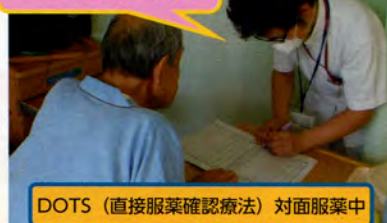
また陰圧病床は県内での結核患者の治療の大半を担っており、県東部はもちろん中部・西部からの入院患者も受け入れています。結核専門の病棟として多剤耐性肺結核及び排菌陽性結核患者を対象としています。クリティカルパスやDOTS(直接服薬確認療法)の導入をし、安心して治療を受けて頂けるよう患者さんやご家族に援助・指導を行い、各保健所や地域の医師と連携を持ちながらスムーズな社会復帰に向け努力しています。

また、パーキンソン病患者を対象とした短期集中リハビリシステムを作成し、快適な在宅生活の維持を図るため、早期より短期的に積極的なリハビリを行い、機能改善・

能力改善をめざしています。目配り・気配りをしながら患者さんやご家族に寄り添い、あたたかい看護が提供できるよう病棟スタッフ一丸となって頑張っています!!



きちんと飲めてますよ。
この調子です!!



DOTS(直接服薬確認療法) 対面服薬中



パーキンソン病短期集中リハビリ中

平日は AM・PM にリハビリスタッフ(PT/OT/ST) 介入による訓練や疾患の特性や日常生活の工夫などを含めた患者教育また自主訓練を実施中。
週末は外泊し、自主訓練を行います。



○ 職場紹介 ～リハビリテーション科～ ○

リハビリテーション科理学療法主任 村上達則

底引き網も休みのため、今市場は白イカと岩ガキが美味しそうに店頭に並べてあるのを羨ましく眺めている今日この頃です！

3月にはたくさんの別れがあり寂しい思いでいっぱいでしたが、4月にはまた新しいたくさんの出会いがあり、当院リハビリテーション科も一新しました！



何より、今年度リハビリテーション科には新人セラピストが5名(理学療法士2名・作業療法士3名)も入職いたしました。理学療法士15名・作業療法士12名・言語聴覚士5名の

計32名の大所帯となりました。

当院のリハビリテーション科は、脳卒中や骨折、廃用症候群の患者様を対象とした在宅復帰に向けた回復期リハビリテーションをはじめとし、神経難病・重症心身障がい者の患者様を対象とした維持期のリハビリテーションを行っています。また、お子様の発達外来のリハビリも積極的に行っております。人と人

との関わりを大切に、心身共に支えになるようにスタッフみんなが精進しています。

新人のみんなは、色々な悩みはあるものの、仲間と支えあいながら日々の業務・自己学習・プライベートと充実した日々を送ってくれています。

今後は、新人のみんなが一人前になり、ますます当院のリハビリテーション科を盛り上げていけると楽しみにしています！

今後ともリハビリテーション科一同、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



○ 新職員ご挨拶 ○

①氏名 ②職場・職名 ③出身地 ④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

①佐々木 朋美 ②地域医療連携室
③鳥取市 ④買い物・陸上
⑤8年ぶりに鳥取に帰ってきました。地元で働けるのは幸せなことだなと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、元気に頑張りますのでよろしくお願いします！



①小林 日香里 ②2病棟
③青谷 ④写真を撮ること
⑤患者さんやご家族、スタッフに信頼される看護師になるよう日々丁寧に関わっていきたくと思います。早く仕事を覚えるよう頑張ります！



①谷本 真記 ②3病棟
③岩美町 ④食べ歩き
⑤年はベテランですが、職歴は6年目でまだまだ未熟者です。早く仕事に慣れるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



①福本 紘子 ②栄養管理室
③鳥取市 ④エレクトーン、走る
⑤娘が2人、旦那が1人います。旅行が好きです。笑顔を大切にがんばりたいと思います。よろしくお願いします。



鳥取医療センターの電気設備について

ボイラー技士長 森原正人

鳥取医療センターの商用電源は、中国電力より6,600Vの高電圧を受電し第1電気室 D棟2階、第2電気室サービス棟内、第3電気室 C棟屋上に送電されています。又、電気室近くには、それぞれ非常用発電機が配置され中国電力からの電力供給が途絶えた場合に自動的に発電機を稼働させる仕組みになっています。発電機的能力と連続稼働時間(燃料タンクで換算)は、第1(500KW)(17時間)・第2(300KW)(8時間)・第3(260KW)(16時間)となりますが燃料タンクは地下タンクに直結していて燃料が減れば補給されるので数日は対応出来ます。停電すると10秒以内に非常用発電機が起動し電圧確立後、保安回路に送電します。停電が復旧すると商用電圧を検出して5分程度余裕を見て商用電源に切り替えます。これは、時折復電しても再度停電するなど、停復を繰り返す事があり、機器の故障を防ぐ為です。1秒未満の瞬停の時

には、発電機は起動しませんが重要な機器には、UPS(無停電電源装置)が接続されていてバッテリー電源を確保していますし、非常用発電機故障も想定し人工呼吸器の患者様の部屋室外に1病棟7台、3病棟2台ポータブル発電機を設置し電源の確保が出来るようにしています。



第1(非常用発電機)



第2(非常用発電機)



第3(非常用発電機)



1病棟南ポータブル発電機



第1電気室



第2電気室



第3電気室

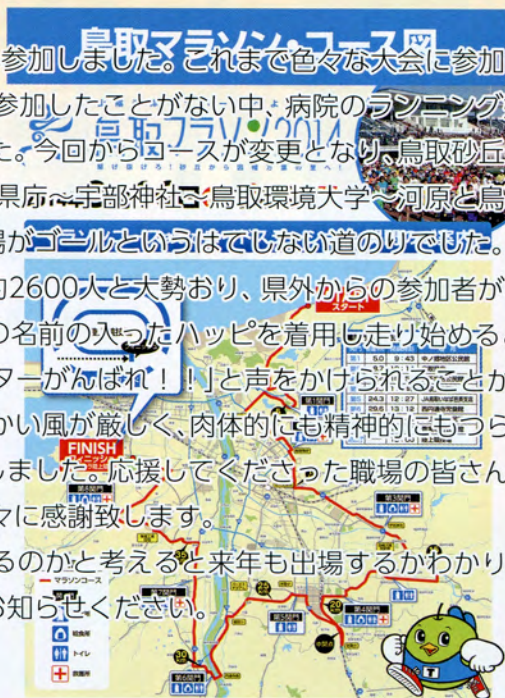
○ 鳥取マラソンに参加して ○

3病棟 岡田 雅人

3月16日、鳥取マラソンへ参加しました。これまで色々な大会に参加してきましたが、10km以上の大会に参加したことがない中、病院のランニング好き達とフルマラソンへ初挑戦しました。今回からコースが変更となり、鳥取砂丘をスタートし、鳥取城跡・仁風閣～鳥取県庁～宇部神社～鳥取環境大学～河原と鳥取市内をぐるりと回り、布施陸上競技場がゴールというはてしない道のりでした。

いよいよ当日、参加者は約2600人と大勢おり、県外からの参加者が半数以上と大規模な大会でした。病院の名前のついたハッピーを着用し走り始めると沿道から大勢の方たちが応援してくださり、「医療センターがんばれ!!」と声をかけられることが多く、とても励みになりました。30km近くになると向かい風が厳しく、肉体的にも精神的にもつらかったです。なんとか完走でき、倒れこむようにゴールしました。応援して下さった職場の皆さんや大会スタッフ・ボランティア・沿道の観客・住民の方々に感謝致します。

あの苦しみをまた経験するのかと考えると来年も出場するかわかりませんが、気軽に体を動かしたいかた、興味のある方はお知らせください。



○ 連携病院ご紹介 ○

— 高田医院 —



いつもお世話になっています。

湖山町の心療内科・精神科、高田医院です。平成25年6月に診療を始めて、1年が過ぎました。気負わず、目と手の届く範囲で、できる事を続けていきたいと思えます。

場所柄、高校生、大学生、働く世代の方々の受診が多く、比較的、診療時間が必要なため、お待ちいただくことが長くなっていることが申し訳ないのです。事前予約をしていただく事で、できるだけお待たせしないようにしています。鳥取医療センターの諸先生には、診

療助言、検査、入院依頼などで大変に助けていただいています。この場を借りてお礼申し上げます。

(高田医院 院長 高田 耕吉)

高田医院

住所 〒680-0942

鳥取市湖山町東1丁目117の3番地
ジョイフレンド1階

電話 0857-30-6860

FAX 0857-30-6861

ホームページ <http://www.takata-mc.com/>

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成26年8月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚔下外来)	土居充	房安	
	3	小西		齋藤	小西 (井上)		
	4	房安		北川	三島		
	5			田中			
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚔下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
	専門外来 (予約制)	発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 関			
精神科	初診	診察室1	坂本	休診	助川	兼子	板倉
	完全予約制ですので事前の予約が必要です。						
	再診	診察室1		助川		兼子	板倉
		診察室2		坂本	土井清	助川	坂本
		診察室3		岩田		幡	土井清
		診察室5		池成		高田	柏木
		診察室6					林
診察室8							
専門外来 (予約制)					睡眠外来 坂本・高田		
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
整形外科 (隔週：8:30~13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)	地域医療連携室	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryō.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111(内線275) FAX 0857-59-0713